

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成29年3月)

### ～依然として世界情勢の不透明感が重しに～

- 景気ウォッチャー調査・3月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3か月連続で低下、先行き判断も2か月ぶりの低下となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、インバウンド関連は前月に続いて堅調な動きがみられたものの、気温要因などで春物商材の売行きが引き続き悪かったほか、消費者の間に広がる節約志向の影響で、全体としては芳しくない状況となっている。
- 今月もプレミアムフライデーについてはほとんど言及がなく、『あまり効果がみられない』といった2件のみであった。
- 一方、先行きについては、米国の新大統領就任による悪影響への不安は多少和らいだものの、引き続き世界情勢の不透明感は強く、先行きの予測が立たないといった声は依然として残っている。インバウンド関連で堅調な動きが続くことへの期待の声は聞かれるが、全体を押し上げるほどの勢いは感じられない。
- なお、プレミアムフライデーに関しては、ほとんど言及がなく、『(前半省略)プレミアムフライデーを含め、消費喚起に直結する施策を今後も期待する』という1件のみであった。

#### 「気温要因」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなる	百貨店(服飾品担当)	・今月は、月前半からの気温の上昇が例年に比べてやや鈍く、春のファッション商材は婦人服、紳士服などを中心に初速が伸びていない。一方、化粧品を中心とする消耗品は、気温の低下で、スキンケア関連が国内商材、外資商材共に好調に推移し、都心店舗、郊外店舗のいずれも、売上は前年比で5～8%の伸びとなった。後半の気温の回復から、ファッション商材にも少しずつ動きがみられたが、衣料関連では今年らしいスタイリングが弱いほか、消費意欲が高まらないことも影響し、前半の買い控え分を取り戻すことはできていない。
		百貨店(マネージャー)	・3月に入って天候の安定した日が続き、入店客数は前年を3%ほど上回っている。気温が低く、ファッション関連は前年比で微減であるが、そのほかの雑貨や化粧品、リビング関連の動きが堅調で、前年よりも増えている。
	変わらない	百貨店(宣伝担当)	・今月も売上が前年比で10.5%増、入店客数が5.8%増と、好調に推移。引き続きインバウンド売上が伸びるなど、関西国際空港の新ターミナル効果が大きく出ている。品目別では化粧品や特選衣料雑貨がけん引しており、不振が続いていた衣料品も、気温の上昇と共に動きが出てきている。
		一般小売店[衣服](経営者)	・春物衣料の動きがととても悪い。気候による要因もあるだろうが、消費者の反応は鈍く、販売量は落ちている。
		百貨店(企画担当)	・月末の雨や気温の低下もあり、ボリューム層の売上は減少傾向が続いているが、富裕層である外商顧客の売上は、微増ながら前年を上回っている。また、外国人による売上も、来客数の増加により31.6%増となり、金額ベースでも3億7千万円の増加となっている。売上全体では前年に対して約7%増えており、この傾向は昨年12月から続いている。
		百貨店(マネージャー)	・店全体の売上は、前年比1.6%増で推移している。前年から特選衣料や雑貨が10%増、化粧品が20%増など好調に推移しており、訪日外国人売上では化粧品が前年から倍増し、全体をけん引している。一方、生活用品関連や食料品関連などは、ほぼ前年並みで推移しているが、中間層向けの婦人服は中旬以降も気温上昇がみられず、春物の動きが鈍いため、前年比5.8%減と苦戦している。ポイントアップ優待売上も、前年から日数を増やしたものの、前年を下回る状況である。高額品の好調により、店全体の客単価は前年から5%ほど伸びているものの、買上客数は0.5%減であるなど、一般ボリューム層の消費意欲は引き続き低迷している。

家計動向関連	変わらない	百貨店（販促担当）	・今月も衣料品の苦戦傾向が続いている。やや肌寒く感じる気候の影響もあり、春物の動きが鈍い。卒業や入学関連も、間近になって準備する傾向が更に強まっている。一方、雑貨は堅調な推移であり、高額品にも動きが出ている。
		スーパー（店長）	・全体の来客数は昨年と比べて減少しており、前月までの状況から回復していない。気温が低いままで推移しているため、特に衣料品の春物の動きが悪く、今後の値引き販売で更に利益を圧迫することが懸念される。
		スーパー（経理担当）	・野菜の相場の低迷や、気温の上昇の遅れといった気候条件により、売上は今一つである。プレミアムフライデーの効果も特に感じられない。
		コンビニ（店長）	・来客数や販売量、客の様子などに、あまり変化は感じられない。気温のアップダウンが激しいので、売れる物に変化はあるが、全体としてはあまり変わっていない。
		美容室（店長）	・今月は気温が低く、化粧品売行きは鈍かったが、トータルの売上はほぼ前年並みである。
家計動向関連	やや悪くなっている	百貨店（売場マネージャー）	・気温が上がらず、春物衣料の動きが婦人、紳士共に、前年比93%前後で推移するなど、大変鈍い。高級ブティックや化粧品、食料品は前年をやや上回っているが、アパレル部門の不足分まではカバーできず、全館では前年比98.5%の見込みである。
		スーパー（経営者）	・月前半は気温が低めで推移したほか、後半は降雨の影響もあり、昨年後半から続いている来客数の伸び悩みに拍車がかかった。野菜は、出遅れていたサラダ関連が一気に出荷され、相場が大幅安となったが、魚は不漁の影響で価格が上がった結果、売上は非常に伸び悩んでいる。調味料なども大幅ダウンとなった結果、客単価が伸び悩むなかで、来客数がマイナスになるという厳しい結果となった。
企業動向関連	やや良くなる	広告代理店（企画担当）	・気温が上がってきて、少しずつ春物衣料の定価商品に動きが出てきている。売上の前年比が回復してきたテナントも多くなっている。

### 「米国の新大統領」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	変わらない	百貨店（営業担当）	・客の消費行動に少し明るさがみえてきたものの、米国の新大統領就任による好景気の陰りと共に、株安、円高の動きがみられるため、日本の景気にマイナスの影響が出てくる可能性がある。
		百貨店（販促担当）	・消費に対する、ある種の守りの姿勢が、特にファッション関連で30代以上の客に強くみられる。若年層はそもそも比率が低く、明るい兆しもみえてこない。米国の新政権や国内政治などの動きも不透明であり、見通しが立ちにくい状況である。
		百貨店（マネージャー）	・米国の新大統領による政権動向や、欧州の大統領選などの結果次第では、経済状況が今後更に不透明となる可能性が高い。現状は比較的堅調に推移している富裕層の消費も、状況によっては失速する懸念がある。一方、韓国の情勢が不安定なことから、日本への旅行者は当面増加が続くことが考えられ、訪日外国人売上は底堅い推移が期待できる。ただし、日本国内の中間層の消費回復なくして、景気の改善は困難であると考えられる。
	やや悪くなる	百貨店（営業企画）	・米国の新大統領就任による影響に陰りが出始めている。米国の株価低迷や円高基調が、景気の低迷に波及するリスクがある。
		スーパー（店長）	・米国の経済政策への期待感が薄れ、円高、株安が進んでいく傾向が避けられないため、日本経済にとってはマイナス要因となる。
企業動向関連	変わらない	その他専門店「宝石」（経営者）	・米国と日本の貿易に摩擦が生じるほか、中国との間にも問題が出てくると思われるため、今後は今よりもやや悪くなる。
		テーマパーク（職員）	・韓国の大統領選までに、北朝鮮が行動を起こす不安や、それに対して米軍も対応を取るといった、まことしやかな情報が飛び交っている。この状況では、消費を促進する政策以前に、地政学リスクの影響が少なく済むような、安全対策などの準備が求められる。国会が国有地売却関連の問題に振り回されているのをみていると、暗い気持ちにしかならない。
	くやや悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・日本は米国の変化による影響を大きく受ける。米国の新大統領の公約がどこまで実現するのかわからない不透明であり、その結果によって円高、株安の方向が決まると感じている。
雇用関連	変わらない	その他サービス業「店舗開発」（従業員）	・米国の新大統領の政権動向や、韓国の大統領選など、日本経済に影響を与える不安要素はあるものの、大阪の景気に限って言えば、どこ吹く風である。当社グループのホテルも、半年先まで稼働率は軒並み90%超となる見込みである。
		経営コンサルタント	・今月は春先特有の動きがいろいろとみられる。3～4月を終えると、米国の新大統領就任による金融市場への影響に陰りが出るほか、国内消費も伸びないなどの悪材料が目立ってくる。
雇用関連	変わらない	新聞社「求人広告」（管理担当）	・新開求人では、引き続き縮小均衡の状況が続いており、少なくとも景気が上向くとは予測できない。日本経済を左右する米国においては、イスラム圏からの入国規制や、医療保険制度の廃止といった米国の新大統領による政策が、司法当局や議会からの反対で否決されるなど不安な兆しはあるが、経済そのものは盤石と考えられる。総合的にみて悪くなるとは思えず、当面は現状のまま進むというのが妥当な見方と考えられる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15			16												17									
		月 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
現 状 判 断	近畿	50.4	51.7	51.8	53.2	51.5	51.9	51.7	53.1	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3
	(全国)	49.0	50.5	51.6	51.0	50.3	50.2	48.8	50.7	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4
先 行 き 判 断	近畿	54.8	55.2	53.7	54.0	53.7	49.0	50.2	51.1	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6
	(全国)	52.2	52.1	52.4	52.4	51.7	49.5	50.1	50.7	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1